# 多自然川づくり取り組み事例

| | | | |
|---|---|---|---|
| タイトル | 荒川太郎右衛門自然再生地における協働・連携の取り組みについて | | |
| 水系／河川名 | 荒川水系荒川 | 河川分類 | 大河川 |
| 河川の流域面積 | 2,940km2 | 整備計画流量 | 6200m3/s　　セグメント：2-2 |
| 事業 | 環境整備 | 事業開始年度 | 平成15年度 |
| 目標設定 | 定性的 | 段階 | C（ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ・評価時） |
| 課題・目的（主な） | 貴重種、特定動植物の保全、縦断的連続性の保全・再生・創出 | | |
| 工法（主な） | 掘削（高水敷）、掘削（河床）、樹木伐採、除根、移植、植樹、管理用道路の整備 | | |
| 配慮事項（主な） | 委員会、協議会等の開催、人材育成、その他 | | |

## 背景・課題、目標設定

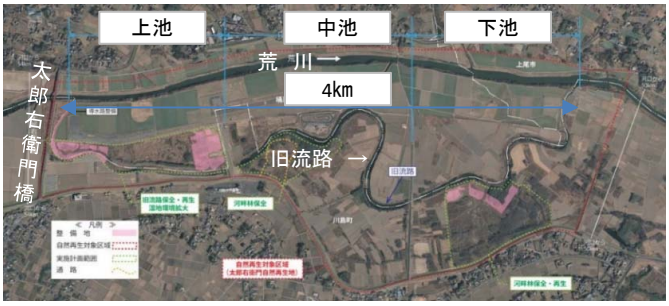
＜背景＞

荒川は、甲武信ヶ岳に源を発し、秩父盆地・長瀞渓谷を経て関東平野の埼玉・東京の県境を流れ、東京湾に注ぐ長さ173キロメートルの一級河川で、「荒川太郎右衛門自然再生地」は、その中流部の桶川市・川島町・上尾市に位置する広大な河川敷にある。「太郎右衛門」の名称は、江戸時代にこの地で渡し船を開設した人の名前とされ、この地域や橋の名称に今も受け継がれている。

「荒川太郎右衛門自然再生地」の旧流路は、1930年代の河川改修事業により捷水路が整備された結果生じたもので、捷水路の整備と合わせて、荒川の河道内に遊水地効果を高めるために横堤が築かれ、蛇行していた旧流路は2本の横堤により3つの池（上池・中池・下池）に分断され、現在の形状となっている。

そこで荒川太郎右衛門自然再生地では、かつて存在していた旧流路を中心とした湿地環境が現在も一部残っている太郎右衛門橋下流約4キロメートルの区間において、過去に確認された多様な生きものが住めるような湿地環境の再生を目指し、乾燥化が進む旧流路や周辺の湿地環境を保全・再生し、多様な水域・水際環境を形成することで周辺地域とのエコロジカル・ネットワークの核となるよう、自然環境の質的向上を目指した取り組みを行っている。

なお、荒川太郎右衛門地区自然再生事業は、「自然再生推進法」（平成14年制定）に基づいて、学識経験者、環境団体、地域住民、行政機関で構成される自然再生協議会を設立し、全国に先駆けて認定された事業である。



荒川太郎右衛門自然再生地

移植したハンノキに飛来した埼玉県の蝶（ミドリシジミ）

＜課題＞

自然再生協議会では、令和元年度（2019年度）に国土交通省による自然再生工事が完了し、今後は、これまでの工事箇所のモニタリング調査を行うとともに多様な主体との協働・連携により、自然再生事業を継続していく体制づくりが急務となっている。

＜目標＞

環境学習や自然体験活動を通して、参加者の意識を高めながら、多様な主体との協働・連携により、自然再生地の維持管理を行い、地域の活性化の一端を担える自然再生地を目指している。

## 取り組み内容・対策例（1/2）

自然再生地における多様な主体との地域連携として、近隣の小学校と連携した取り組みについて紹介する。

荒川における外来植物の抑制と景観形成を目的に、学校などで荒川にもともと生育する在来の草花（キンミズヒキ、ユウガギクなど）を育て、種を収穫する「荒川の草花を育てようプロジェクト」に近隣の小学校が参加し、現地では児童が外来種の抜き取りや昆虫観察の環境学習のほか、児童が種から育てた在来種の苗を自然再生地に移植している。

本プロジェクトは、平成28年度（2016年度）より、荒川太郎右衛門自然再生地の下流に位置する三ツ又沼ビオトープで開始し、現在6校・1園が参加しているプロジェクトで、この一連の取り組みを通して、児童には荒川の自然を守り育てる大切さを体験的に学習する機会を提供している。

近隣の小学校における環境学習（オオブタクサの抜き取り）

在来の草花の種まき

教室での講話

## 取り組み内容・対策例（2/2）

自然再生地における新たな普及啓発活動として、東京デザイン専門学校と連携した取り組みについて紹介する。

東京デザイン専門学校では、荒川太郎右衛門自然再生地を題材としたプロモーションをカリキュラムに取り入れて頂き、約2ヶ月間の講義の中で企画からデザインまで一貫して課題に取り組んでいる。

協議会においては、オリエンテーションで自然再生地における取り組みや課題を説明し、企画提案があった成果物は協議会で活用方法を検討し、令和2年度（2020年度）の普及啓発活動で活用している。

東京デザイン専門学校におけるオリエンテーション

現地見学の様子

表彰式後の記念撮影

令和元年度（2019年度）に企画提案して頂いた「親子で楽しくエッグハント」のイベントは、中池をフィールドとして外来種をむしりながら「たまご」を見つけ、見つけたら「たまご」の中に入っている在来種の種を植える企画で、エッグハントで使用するたまごやチラシ等をデザインして頂き、令和2年度（2020年度）の自然再生地での普及啓発イベントで活用している。

イベントチラシ

イベント参加者集合写真（令和2年10月18日）

## ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ結果、ｱﾋﾟｰﾙﾎﾟｲﾝﾄ、今後の対応方針

これまでの取り組みにより、近隣の小学校では、令和2年度（2020年度）から荒川太郎右衛門自然再生地をフィールドとした環境学習として「総合的な学習の時間」のカリキュラムに取り入れて頂いている。また、参加者に好評だった「親子で楽しくエッグハント」の開催状況は、東京デザイン専門学校へフィードバックし、令和2年度（2020年度）の講義において参考にして頂いている。

また、ご紹介した環境学習と普及啓発活動は、自然再生を推進していくうえで連携した取組であることをポイントとしてあげる。今回、エッグに入っている草花の種は、「荒川の草花を育てようプロジェクト」で活動している保育園の園児が収穫した種が入っており、東京デザイン専門学校が企画した「親子で楽しくエッグハント」の普及啓発活動と関連付けることで多様な主体が連携した取組となっている。

荒川の草花を育てようプロジェクト

（園児が収穫した4種類の草花の種）

東京デザイン専門学校の企画

（12種類のエッグ）

親子で楽しくエッグハント

（種まき）

令和元年度（2019年度）から新たな主体との協働・連携がスタートしているが、荒川太郎右衛門自然再生地の広大な自然環境を保全していく体制づくりまでは至っていない。そのため、今後も多様な主体と協働・連携が図られるように協議会で話し合い、さまざまな団体にアプローチしていく方針である。

| | |
|---|---|
| 問い合わせ先 | 関東地方整備局　荒川上流河川事務所　河川環境課 |
| 電話番号 | 049－220－0145 |